

民間病院の2025年に向けた対応方針（横浜構想区域）

資料 4

1 新たに2025プランの提出があった病院一覧

- 本県では、2018年度以降、県内の病院に対して、2025年に向けた対応方針（2025プラン）の作成（更新）・提出を依頼してきた。
- 2025プランの提出について働きかけを行った結果、4病院から提出があったので報告する（横浜構想区域は診療所を除く全病院が提出済み）。

医療機関名	病床種別			病床機能(現状)①						指定・届出等						病床機能(2025)② ※下段は現状との差(②-①)						2025年に向けた方針		
	一般	療養	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟(病床)	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	介護医療院	計	病床機能の変更予定(増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定
1 生麦病院	許可病床	41	0	41	0	0	41	0	0	41						0	0	41	0	0	0	41	変更予定なし。	変更予定なし。
	稼働病床	41	0	41	0	0	41	0	0	41								-				-		
2 医療法人横浜平成会 平成横浜病院	許可病床	183	0	183	0	36	147	0	0	183	○	○	○	○		0	36	147	0	0	0	183	変更予定なし。	変更予定なし。
	稼働病床	183	0	183	0	36	147	0	0	183		50	97					-	-			-		
3 特定医療法人社団 育成社 佐々木病院	許可病床	88	0	88	0	88	0	0	0	88		○				0	54	0	34	0	0	88	○3階病棟のベッド57床を54床へ変更予定。 ○地域に不足する慢性期病棟を提供するため、4階病棟を急性期から医療療養病棟34床へ変更予定。	2024年6月位を目標としている。
	稼働病床	59	0	59	0	59	0	0	0	59		20					△34		+34			-		
4 医療法人裕徳会 よこはま港南台地域包括ケア病院	許可病床	60	60	120	0	0	120	0	0	120		○				0	0	120	0	0	0	120	変更予定なし。	変更予定なし。
	稼働病床	60	60	120	0	0	120	0	0	120		120										-		

2 病床機能等を転換を実施予定の医療機関一覧

○ 2025プランの変更予定の医療機関について報告する。

医療機関名称	病床種別				病床機能											今後の方針										転換理由等						
	(変更前)		(変更後)		(変更前)					(変更後)						病床機能(2025)											その他		病床合計			
	一般病床	療養病床	一般病床	療養病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	計	高度急性期	急性期	回復期		慢性期	休床		計	精神病床	感染症病床
1 横浜市立大学 附属市民総合 医療センター	676	0	654 (▲22) ※	0	71	581	0	0	24	676	73 (+2)	581	0	0	0	654 (▲22)	676	0	0	0	0	676	79 (▲597)	575 (+575)	0	0	0	654 (▲22)	42	0	696	○在院日数の縮減に伴う病床利用率の低下や、急性期で運用していた1病棟24床を令和2年度から休床としていた。 ○この度、手術件数の増加への対応など、重症系に係る医療機能を拡充する必要があり、22床を返上し、残り2床は高度急性期として再稼働する。
	R2から休棟中の24床の内、22床を返上																															
2 医療法人敬生 会 十慈堂病院	0	77	0	29 (▲48) ※	0	0	0	77	0	77	0	0	0	29 (▲48)	0	29 (▲48)	0	0	0	77	0	77	0	0	0	29 (▲48)	0	29 (▲48)	0	0	29	○介護療養病床が令和5年度末で終了することに伴い、介護医療院への転換か、医療療養型病床へ変更する必要があるため、令和5年4月1日付で介護療養病床77床の内、48床を介護医療院へ転換した。 ○残りの29床については、令和6年4月1日までに医療療養型病床に変更する予定。なお、病床機能については、現状の慢性期から変更なし。
	介護医療院への転換																															
3 医療法人社団 山本記念会 山本記念病院	49	82	49	82	0	49	0	82	0	131	0	49 ※	0	82	0	131	0	49	0	82	0	131	-	-	-	-	-	-	0	0	131	○近隣の救急病院からのポストアキュートの増加及び在宅患者や施設入居者からのサブアキュートの増加に対応するため、地ケア病床を増床する必要がある。 ○また、後期高齢者が多く、一般病床の在院日数ではとても対応しきれないことも要因として挙げられる。
	一般病床から地域包括ケア病床へ15床変更する。 <<変更前>> 一般病床25床 地域包括ケア病床24床 (計49床) <<変更後>> 一般病床10床 地域包括ケア病床39床 (計49床)																															
4 特定医療法人 社団鵬友会 湘南泉病院	156	0	156	0	0	156	0	0	0	156	8 (+8)	148 (▲8)	0	0	0	156	0	156	0	0	0	156	8 (+8)	148 (▲8)	0	0	0	156	0	0	156	○令和6年4月、相鉄いずみ野線ゆめが丘駅前に移転し、名称を「ゆめが丘総合病院」に変更して病院を開業予定。 ○土地再開発による救急医療の需要の高まりに備えて、救急を含めた高度急性期機能を強化し幅広い受け入れ態勢を整えるため、急性期病床156床のうち8床を高度急性期に転換する予定。

3 横浜新都市脳神経外科病院 病床機能転換について

○ 令和5年度第2回横浜地域地域医療構想調整会議において、継続協議としたことから、会議後の調整結果について報告する。

令和5年11月1日開催 第2回横浜地域地域医療構想調整会議資料より

○病床機能転換について：急性期236床のうち、9床を高度急性期へ転換

- ・ S C U病床（高度急性期）を保有している近隣施設は、昭和大学藤が丘病院（3床）、横浜総合病院（6床）が5 km圏内にあるが、それ以外は物理的距離が5 km以上離れており、近隣施設の病院ではS C U病床を保有している施設が少ない。
- ・ 脳血管疾患は早期対応が重要であり、なかでもt-P A療法は発症後迅速かつ的確な診断のもと、直ちに治療を開始するため、専門的な対応が可能なS C Uは地域に需要があると考えられる。
- ・ 当院では2021年度脳外科救急搬送数4,262件、S C U稼働率100%、平均在室日数7.0日、2022年度脳外科救急搬送数5,134件、S C U稼働率100%、平均在室日数6.3日と救急搬送件数の増加、新規の脳卒中患者様の入院により、1人当たりの在室日数が6.3日へ短縮傾向にあり、現在のS C U病床数では、脳卒中の治療ケアに支障をきたしてしまう。
- ・ 当院は、脳外科に加え、2023年4月より脳神経内科を新たに標榜し、高度急性期治療に関して頭部C T、頭部M R I、脳血管造影などの検査、緊急血管内治療・開頭手術など24時間365日対応可能な体制を継続していく。
- ・ S C U病床を30床に変更することで専用の病床・専門チームで医療・看護を提供することにより、脳卒中早期治療、死亡率の減少、長期的な日常生活能力と生活の質の改善を図るため活用していく。

医療機関名称	現在の状況														今後の方針（※2025年に目指す姿）										目標等																							
	一般病床・療養病床														一般病床・療養病床										その他																							
	<変更前> 病床機能 2021年							<変更後> 病床機能 2023年							【参考】指定等の状況																																	
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	診療項目	常勤職員数	救急病院	地域医療支援病院	がん診療連携拠点病院	緩和ケア病棟	周産期救急医療受入病院	災害拠点病院	感染症指定病院	地域包括ケア病棟	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	病院機能評価認定	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	精神病床	感染症病床	病床合計	診療科見直し	特記事項	病床稼働率（%）	手術室稼働率（%）	紹介率（%）	逆紹介率（%）	その他
医療法人社団明芳会 横浜新都市脳神経外科病院	21	236	60	0	0	317	30	227	60	0	0	317	脳神経外科、整形外科、循環器内科、内科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、脳神経内科	医師22人 看護職員301人 医療技術職員188人 事務職員92人 計603人	○							○	○			○	21	236	60	0	0	317	30	227	60	0	0	317	0	0	317	-	-	95.0	60.0	60.0	75.0	-

※<変更前>病床機能2021年の急性期・慢性期の病床数について

- ・ 2019年、脳外整形循環器急性期疾患患者の受入増加による急性期病棟の需要の高まりを受け、障害者病棟29床（慢性期）を急性期29床に病床転換（横浜北部エリアの地域医療検討会へ報告後、地域医療構想調整会議へ協議・報告漏れ）
- ・ 2020～2021年、高度急性期の需要の高まりを受け、急性期3床を高度急性期に病床転換

発言者	発言の概要
松井副会長 (横浜市病院協会会長)	○最初に障がい者の慢性期病棟を急性期に転換したということだが、方針としては、今不足しているのは、慢性期や回復期が足りず、急性期が足りているという状況なので、逆の方向に行くのはおかしいのではないかと。 ○しっかりと報告していただかないと、ということ（市病院協会の中で）かなり問題となった。
伏見会長	○以前の転換も含めて十分議論がされていない、ということだと思ふ。 ○本日については、いったん保留として、あらためて継続案件として審議を継続するという形としたいと思ふ。